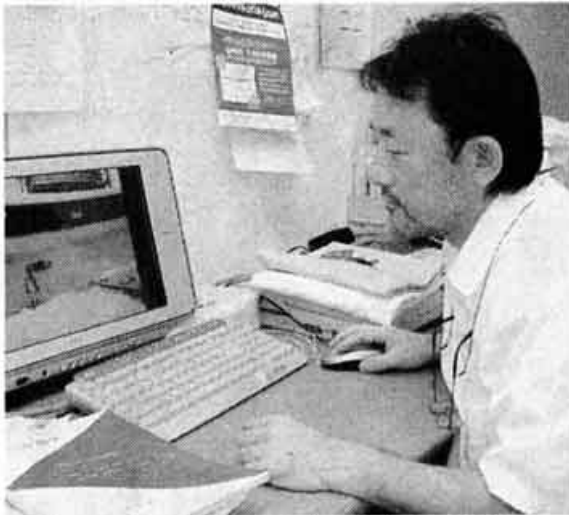


# 解析研究会の道内スポーツ学会賞に 手が決め歯が100キロの時速

## リュージュ競技かみ合わせが影響

時速百キロを超えて速さを競うリュージュ競技で、歯のかみ合わせが、成績や事故防止に重要な役割を果たしていることが、北海道スポーツ歯科研究会の調査で分かった。研究結果は本年度のスポーツ歯科医学会賞に選ばれ、同研究会代表で札幌市内の歯科医師森修二さん(五)は「受賞を機にスポーツ歯科の重要性が理解されれば」と話している。



リュージュ競技と歯のかみ合わせの調査で学会賞を受賞した森修二さん

リュージュでは、滑走中の速心力やスピードで、頭の後方や側方に振られる「首とられ」現象が起こり、タイムのロスや事故につながる危険がある。森さんは、歯のかみ合わせが悪いと頭・頸部のバランスが崩れ、背筋力などが低下、「首とられ」が生じやすいことを解明。また今年二月、ドイツで開かれたリュージュのワールドカップで、参加

十五カ国の選手百人を対象にアンケートを実施。六十六人から得た回答を基に分析し、選手の「首とられ」に対する認識などを調べた。その結果、65%が「首とられ」による転倒などの経験があると回答する一方、60%超が年二回定期歯科検診を受けていると答え、トップレベルの選手の間で歯のかみ合わせの重要性に対する認識が浸透していることがうかがえたという。

ドイツのコースでコーナーを滑走する選手を実際に撮影し、歯のかみ合わせが良く食いしばった表情の選手があごを引いて安定しているのに対し、頭部が後方に流れた選手はかみ合わせが悪く口元がゆるんでいることも分かったという。

日本スポーツ歯科医学会は来年の総会を七月に北海道で開き、森さんの表彰式を行う。森さんは「スポーツ歯科医学は歴史も浅いが、歯のかみ合わせの重要性をいろんな競技で普及していきたい」と語っている。

# リュージュ競技におけるスポーツ歯科的アプローチ

## 2. アンケート調査による分析

森 修二, 高橋 敏幸, 荊木 裕司, 横田 敏郎, 深江 敦, 角江 紀彰, 中港 誠幸, 工藤 勝,  
山口 敏樹, 高道 理, 額賀 康之  
北海道スポーツ歯科研究会

### 目的

海外でのリュージュ競技における歯やあごのケガ・脳しんとうの発生状況を調べるために、アンケート調査を行った。

### 対象と方法

2007年2月13日ドイツで開催されたリュージュワールドカップ第8戦において参加15カ国チームのリュージュ選手100名を対象にアンケート調査を実施した。アンケート用紙は独文、英文、和文で筆記とした。調査の主な内容は、首とられによるケガの有無・首の筋力強化やトレーニング、マウスガードの使用・歯科健診の受診状況。

## 結果および考察

リュージュは約1,000mの氷のコースを一気に滑り降り、その速さを競う競技である。操縦は選手自身の重心の移動と“そり”の先端を足ではさみ行う。この姿勢に大きな変化を与えるものにいわゆる「首とられ」がある。これはカーブにおいて頭部が後方および側方に振られことを示す。「首とられ」が起きることにより“そり”に不安定な挙動が発生しタイムをロスし、さらに、コースアウト、転倒事故にもつながる危険性をはらんでいる。

今回のアンケート調査の回答率は66%であった。

「滑走中に首をとられる状態になったことがある」と答えた選手は66名中65名で98%であった。「首とられ」による転倒やケガの経験がある選手は66名中43名で全体の65%であった。「首をとられた場合に危険な状態が生じる」と答えた選手は66名中35名で全体の53%であった。反面、「首とられを防止するために首の筋力強化やトレーニングをしている」選手は66名中64名で全体の97%をしめていた。「首とられを意識して滑走していますか」という質問には66名中64名が「はい」と答えていた。以上の結果から海外の選手は「首とられ」と競技成績、事故発生に関連性があると考えていることがわかった。

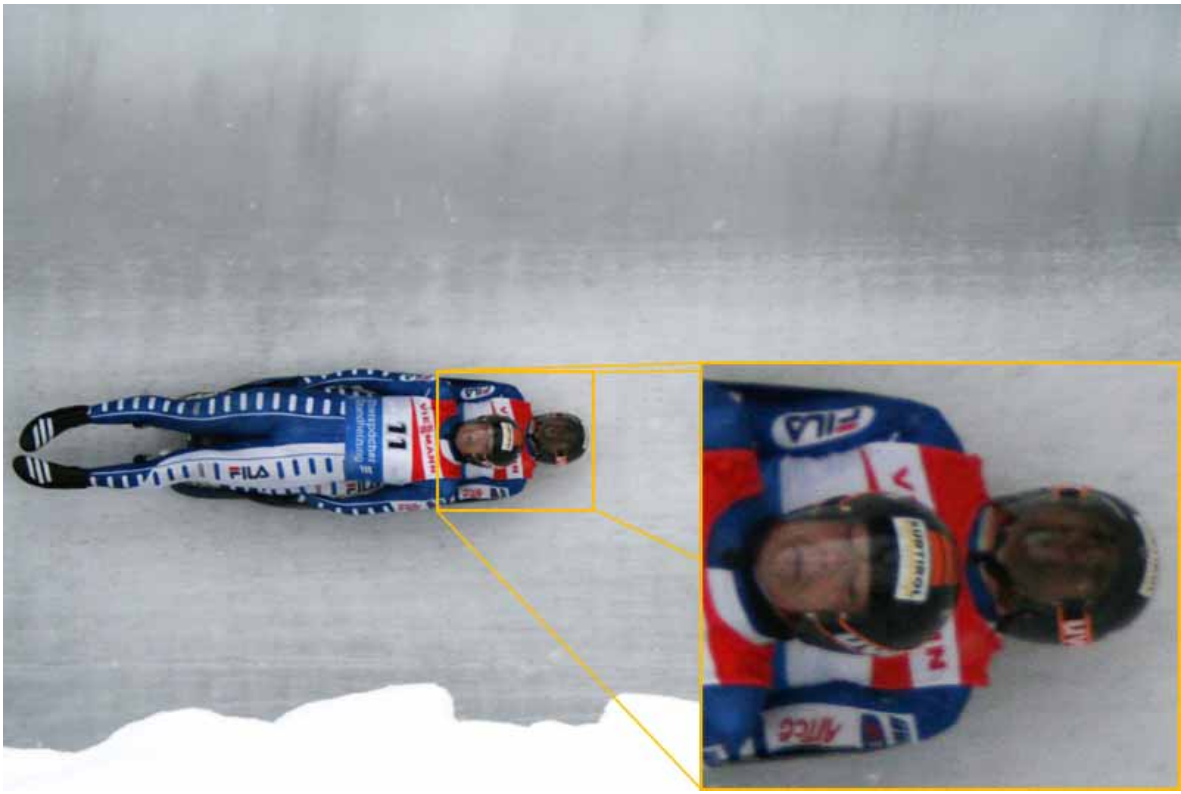
また、噛みしめが首とられ防止に関係すると答えた選手は8名で全体の12%であった。国内調査での同じ質問では39%の選手が関係すると回答しており海外との違いがみられた。

「首とられ」は滑走中の遠心力、スピードにより頭部が後方および側方に振られることにより発生するため、リュージュ競技において競技力の向上と事故の防止対策として頭部の安定は極めて重要である。また、これまでのスポーツ歯科医学的研究から噛み合わせの安定が、頭と首の安定に重要な役割をしている、ということが分かっている。

これらのことから今回の調査では、国内だけでなく国際的にリュージュ競技現場においてスポーツ歯科のアプローチの必要性が極めて重要であることが示された。

### 参考文献

1) 森 修二, 荊木裕司, 工藤 勝: リュージュ競技におけるスポーツ歯科のアプローチ, スポーツ歯誌, 7: 18 - 26, 2004.



コーナーで首をとられて滑走中のイタリアの選手。



首をとられないように喰いしばっているオーストリアの選手。

いずれも首をとられないようにするために強い力で喰いしばっていることが見られる。



首とられの瞬間を画像に収めた南ドイツのリージュコースの最終コーナー。